

また『菅家文章』「437 北堂文選竟宴、各詠史、句、得乘月弄潺湲」に「五言何秀句、乘月弄潺湲」の句が、また「315 水聲」に「夜久人閑也不風、潺湲觸聽感無窮」の句が、また「161 灘聲」に「避喧雖我性、唯愛水潺湲」の句が見える。

147 ○俄頃…しばらく。瞬時。またたくま。しばし。

『孔子家語』「六本」に「俄頃左右報」の用例が見える。

『漢語大詞典』では「片刻、一会兒」と説明し、郭璞の「江賦」の「條忽數百、千里俄頃、飛廉無以晞其蹤、渠黃不能企其景」の句を引く。

○羸身…ひ弱な様、瘦せて虚弱な様

148 ○等閑…物事に意を留めないこと。なおざり。あるがままにまかせる（『新字源』）。

錢起「婦雁詩」に「瀟湘何事等閑回、水碧沙明兩岸苔」の句が、また賈島の「古意詩」に「俱為不閑、誰是知音目」の句が、また白居易「琵琶行」に「秋月春風等閑度」の句が見える。

『漢語大詞典』では「亦作等閑」とあり、「①尋常、平常」と説明し、前述の賈島の「古意詩」の「志士終夜心、良馬白日足、俱為不閑、誰是知音目」の例を、また「②輕易・隨便」と説明し、白居易の「新昌新居詩」の「等閑裁樹木、隨分占風煙」の句を載せる。

149 ○馳…はせる。かえる。

○怳々…ぼんやりしてはつきりしないさま。気抜けしたさま。失意のさま。

司馬相如の「長門賦」に「神怳怳而外淫（注）善曰、王逸楚辭注曰、怳、失意也」の用例が見える。『漢語大詞典』には「①模模糊糊、仿佛」と説明し、李白の「草書歌行」の「怳怳如聞神鬼驚、時時